

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-4, 6-41 ページ、出願時に提出されたもの
 第 5 ページ*、01.11.2004 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 2-18, 20-27, 29, 30, 32-36, 38-41 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 1, 19, 28, 31, 37 項*、01.11.2004 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-15 ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- ☐ 請求の範囲を減縮した。
- ☐ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. ☒ 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

独立した請求の範囲1、19、27、31、37（発明群A）と独立した請求の範囲28（発明群B）に共通な事項は、磁性担体である。

しかしながら、磁性担体は、文献JP 6-133784 A（新技術事業団），1994.05.17に開示されているから、新規なものではない。また、特別な技術的特徴と考えられるその他の共通の事項は存在しない。

よって、両発明群に属する発明は、一又は二以上の同一又は対応する特別な技術的特徴を含む技術的な関係にあるとはいえず、単一の一般的発明概念を形成するように関連しているものとは認められない。

4. したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。

☒ すべての部分

☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-27, 31-41	有 無
	請求の範囲	28-30	
進歩性(IS)	請求の範囲	1-26, 31-41	有 無
	請求の範囲	27-30	
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-41	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

- 文献1: JP 7-241192 A (ティーディーケイ株式会社),
1995.09.19
文献2: JP 6-133784 A (新技術事業団), 1994.05.17
文献3: F. Toneguzzo, et. al.,
Electric field-mediated gene transfer: characterization of
DNA transfer and patterns of integration in lymphoid cells.
Nucleic. Acid. Research., 1988, Vol.16, No.12, p5515-5532
文献4: WO 94/09145 A1 (CANGENE CORPORATION),
1994.04.28
文献5: EP 866123 A1 (EPPENDORF-NETHELER-HINZ GMBH),
1998.09.23

請求の範囲1-26, 31-41

請求の範囲1-26, 31-41に記載された発明は、国際調査報告に引用された文献1-5より、新規性、進歩性を有する。

文献1には、磁場の印加により目的とする細胞に所望の遺伝子を導入するための、所定の構成からなる生体物質導入装置及び生体物質導入方法が開示されており、文献2には、特定の生体物質導入用磁性微粒子、当該微粒子を用いた細胞の分離工程が開示されており、文献3-5には細胞の穿孔処理が記載されている。

しかし、上記いずれの文献にも、磁場の印加により目的とする細胞に所望の遺伝子を導入するための、生体物質導入装置及び生体物質導入方法において、収容部を挟むようにして少なくとも2方向から前記収容部に磁力を及ぼすことが記載も示唆もされておらず、また、当該事項は当業者にとって自明とも認められない。

請求の範囲27

請求の範囲27に記載された発明は、国際調査報告書に引用された文献1-2から進歩性を有しない。

独立した請求の範囲27に記載される発明は、収容部を挟むようにして少なくとも2方向から前記収容部に磁力を及ぼすという特定がなされていない。

よって、文献1の生体物質導入に関する発明において、粒子の導入効率の向上等のため、粒子形状を文献2に記載されたようなよく知られたものにしてみようとすること等は、当業者が容易に想到し得たことである。

(補充欄へ続く)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 28-30

請求の範囲 28-30 に記載された発明は、国際調査報告に引用された文献 2 から新規性、進歩性を有さない。

文献 2 には、生体物質の細胞内へ導入に用いる、磁性微粒子が開示されており、当該磁性微粒子の形態は、非球形で角のあるものが好ましく、針状で断面が棒状のものが好ましいことが記載されている。針状の磁性微粒子とは、通常、長軸方向に磁化され又は磁化容易と認められる。